

人を支える税

妹背牛町立妹背牛中学校3年 石井 治希

私が住む妹背牛町は、自然が豊かで米がおいしい町である。しかし、買い物をする際には隣町まで行くことも多く不便なことも多い。生活する上では、苦労することも多い町ではあるが、町民に対し税金を使ったさまざまな支援が行なわれている。例えば、水道料金の助成や、学校給食費助成などがある。

その中で、私は医療費助成という支援にとっても助けられた。私は、小学校五年生の夏に盲腸の手術を受けた。何度も病院に通院し診察や点滴を受け、とても辛い毎日だった。その際に、私は妹背牛町の医療費助成制度について知った。妹背牛町では、十八歳までの子どもに対して医療費無料という制度がある。そのおかげで、私は入院費・手術費などのさまざまな医療費を、妹背牛町から支援していただいた。

また、妹背牛町ではスポーツ少年団に対して、バスの送迎の支援がある。私は、小学校・中学校とスポーツ少年団に所属していたため、この制度にはとても感謝している。札幌や、苫小牧といった遠い遠征先に行くことができた。これにより、普段、試合ではなかなか対戦できないチームと試合をすることができると、多くの場面でバスを利用させていただいた。

このように、妹背牛町では子どもから高齢者まで全て支援されている。この、町民に対する支援は税金で賄われている。私は、このような支援を受けていることで、税金は身近なものと感じている。

税とは、生活をする上でとても大切である。妹背牛町は、税を活用することで町民の暮らしを豊かにしている。しかし、税金に対して否定的な意見をもつ人も多いと思う。そこで税金をただ納めるだけでなく、自分が納めた税がどのように使われているかを知ることによって税に対する理解ができると私は考える。納めた税が、誰かの役に立つことを理解し、私は将来きちんと納税し社会の一員として貢献したい。